

5 年 4 組 算数科学習指導案

1 本時のねらい

あまりの大きさについて説明する活動を通して、除数と被除数を 10 倍した計算ではあまりを求めることができないことに気づき、小数の除法におけるあまりの大きさについて説明することができる。

2 本時の評価規準と評価方法・場 <思考・判断・表現>

小数の除法での余りの大きさについて、図や検算をもとに説明している。(ロイロノート・発言)

3 本時の展開 (8/9)

過程	ねらい	学 習 活 動	指導・援助・留意点
見 付 け る		1 問題を読み、立式する。 2.5mのリボンを、1 人 0.7mずつ配ります。何人に配れますか。また、何mあまりですか。	
考 え る	○あまりが 4 m ではないことを実感し、課題意識をもつことができる。 ○自分の考えをもつことができる。	・あまりも求めるという点が、前回までとちがうな。 ・2.5 を 0.7 ずつ等分するから、式は $2.5 \div 0.7$ になる。 2 課題意識をもつ。 ・ $2.5 \div 0.7 = 3.5$ あまり 5 <u>3.5 人に配れて 5 m 余る</u> 3.5 人はおかしいな。 ・ $2.5 \div 0.7 = 3$ あまり 4 <u>3 人に配れて 4 m 余る。</u> ・あまりが 4 だと、わられる数 2.5 より大きくなってしまふな。 ・あまりは 0.4 かな。 あまりは本当に 0.4 なのだろうか。	○あまりが 4 m ではないと気づき始めたところで、2.5m のリボンと、4 m のリボンの実物を提示し、あまりがもとの数より大きくなることの矛盾を実感できるようにする。 ○ロイロノートの資料箱に、図やたしかめ算を穴埋めにしたものを入れておき、つまずいている場合は資料を使用するように促す。 ヒント (小) : リボンだけの図 ヒント (大) : リボンの図に、0.7m の区切りが書かれているもの
深 め る	○自分の考えを図や式をさし示しながらペアに説明することができる。 ○自分が考えていなかった方法の説明も理解することができる。 ○これから小数のわり算でありを求める場合は、被除数の小数点の位置にそろえてうてばよいことを理解する。	図で説明する。 「2.5m を 3 つに分けると、0.4m あまることがわかります。」 筆算で説明する。 0.1 をもとにすると、$25 - 21$ で 0.1 が 4 個分になる。だから、余りは 0.4 になる。 たしかめ算で説明する。 $0.7 \times 3 + \square = 2.5$ $\square = 0.4$ 「$0.7 \times 3 = 2.1$ になり、2.5 から 2.1 を引くと 0.4 になります。」	
つ な げ る		4 ペア交流に取り組む。 5 全体追究に取り組む。 ・図を用いた説明 たしかめ算の説明 筆算の説明 6 練習問題に取り組む。 2.5mのリボンを、1 人 0.8mずつ配ります。何人に配れますか。また、何mあまりですか。 ・数字が変わってもあまりを求めることができた。 6 本時の学びをまとめる。 T : これから、小数のわり算でありを求めるとき、筆算でありを求めるのは無理なのかな。 ・あまりは、元の小数点の位置に戻して表せばよい。 筆算で小数のわり算のあまりを考えると、あまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえてうつ。	ペア交流や全体追究では、図や式をつなげて指し示しながら話すように支援する。 (重点 2)
		7 評価問題に取り組む。(発展問題) 8 学びの振り返りをする。	○まとめの前に一般化を図るために、問題場面の数字を変えた問題に取り組む。 ○まとめで、文章だけでなく、筆算の隣に文章や矢線を書いてまとめてもよいことを伝え、書いてまとめるのが苦手な児童もまとめることができるようにする。

